

まちあるきに着目した市街地観光に関する実態調査
—愛媛県内子町における「内子ねき歩き」の事例—

実査日：平成 28 年 10 月 28 日

報告者：財団法人都市化研究公室研究員岩間真二

1. はじめに

少子高齢化や人口減少傾向は全国的にも問題になりつつあるが、特に地方部ではその傾向が顕著に進行してきている。そういった地方において人口減少等による活力の低下がコミュニティの維持への問題を伴いより一層過疎化が進んでしまいかねない。

その活性化策において、旧来型のいわゆる箱モノ的なものの活性化は、これまでの失敗や維持管理等への財政への影響などから既に特段の見込みがない限り取られる方策ではなくなっているため、今日では既存の地域資産を生かし、外部経済の導入を行っていくことが考えられる。その 1 つの方法として本稿では、ガイドによるまちあるき観光、特に観光スポットや、観光スポットを巡るというガイドではなく、まちそのものを散策し楽しむというものに注目している。

本稿は市街地観光やまちあるきによる観光について調査を行うため、愛媛県内子町の「内子ねき歩き」を取り上げ、内子町ビジターセンター、ガイドによる実際のまちあるきを行った報告を行い考察する。

2. 内子町について

- 概要

愛媛県内子町は、愛媛県の県庁所在地である松山市より南西に車で 30 分、電車で 30-60 分の距離にある町で、愛媛県のほぼ中央部に位置している。平成 17 年に旧内子町を含む 3 町が合併している。面積は 299.5 km²、その 77%強が山林を占めている。人口は 1 万 7 千人強（平成 28 年 10 月・住人基本台帳人口）であり、人口は年々減少している。

内子町の主な産業は農林業が主なものとなっており、江戸時代は木蠟、和紙の生産で栄えたため古い町並みが残っており、重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）である八日町・護国地区や、大正 5 年に建設された劇場である「内子座」などの歴史資産を観光へ活用している。

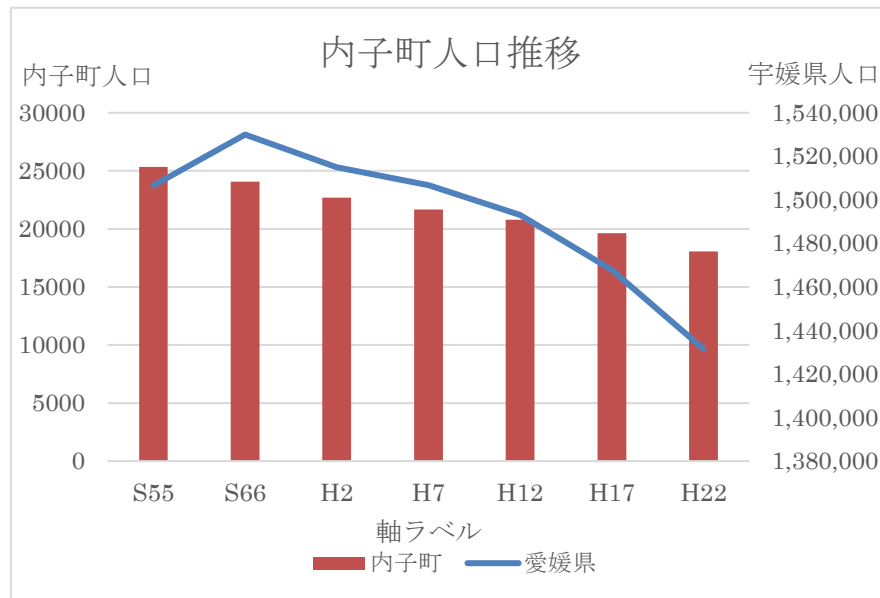


図 内子町人口推移(国勢調査・合併区域換算済み)



内子座

※各種データ等は内子町ホームページ (<https://www.town.uchiko.ehime.jp/>) またはより抜粋している

3. 内子町におけるまちあるき観光「内子ねき歩き」について

本節では、内子ビジターセンターへのヒアリング及び、ガイドの越智氏のまちあるきへの参加及びヒアリングを行ったものをまとめたものとなっている。

- 内子ねき歩きについて

内子町において観光ガイドとして平成 2 年に任意団体として「内子町町並みガイドの会」(以下、ガイドの会)が発足し、基本無料(旅行者申し込みの場合は 2000 円) 事前予約制で伝建地区から内子座や、木蠟資料館、内子座等の伝統文化施設をめぐるコースガイドを行っている。

一方で平成 26 年に「内子ねき歩き」(以下、ねき歩き)が内子町を主体として活

動を開始している。「ねき」というのは、方言で「近く」という意味であり、近場をめぐる新たなまち歩きとして発足している。作成にあたり、「長崎さるく」や、「大阪あそ歩」などの例を参考にし、ストーリーに沿ったもの、観光だけでなくまちの暮らしや文化を見せるもの、また要望によりアレンジも行うなど柔軟なコース設定を行っている。

ねき歩きは、利用者一人につき 500 円～2000 円と有料となっており、お茶や食事付きのコースもある、基本的に小グループ (15 名程度まで) を対象としている。基本コースについては後述するが、観光拠点よりまちなかをめぐるコースを設定している。

まち歩き全体では 250 件 4000 名程度の利用があるということであるが、そのうちねき歩きは 50 件 200 名弱ということである。

ねき歩きのガイドの組織としては、自主性を重んじるということから任意団体となっており公費支出上必要な代表者は名目的にしているということであるがフラットな組織運営を心掛けているということである、運用支援・事務として観光協会が行っている。ガイドはガイドの会約 20 名、ねき歩き 10 名程度、また両方への兼任もある。

ガイドの募集は、広報、チラシ等で行い、研修としては一般的なボランティア研修のほか基本的には現場実習・座学で行い、ガイド独自のものとして独自に資料収集等主になっているということである。ガイド料として 500 円/人程度支給されるがほぼ交通費等の実費程度ということである。ねき歩きとして平成 27 年次はガイド参加費として 14 万円程度の収入があったが支出もほぼ同額のため収支的に均衡している。

まだ開始してそれほど期間がたっていないこともあり、比較的小規模に行っているが、内子全体の取り組みとして長くい目で地域振興になっていければということである。これから少しずつ浸透していければとのことである。

- 内子ねきあるきのコースについて

ねき歩きのコースとして以下の 9 コースが設定されている

町並みコース	尾首やま里コース
せだわコース	和紙の里いかざきコース
内子びとコース	さくらの里野村コース※
石畳むら並みコース	六日市コース※
龍宮コース	

※2 コースはガイド育成中のため行っていないとのこと



パンフレット

これらのうち、まちなかをめぐるのは町並みコースとせだわコースであるが、この「せわだ」というのはいわゆる路地であり、また、パンフレット上のコース図とは若干異なるコースをたどることがあるということである。

後述するまちあるきは基本「せわだコース」であるが、コース図とは異なるルートを使っている。参加者の要望と時間、興味などにより柔軟に対応している。

- 内子ねきあるきのまちあるき

実査日の当日はあいにくの雨であったが、ガイドの越智さんの案内によりまち歩きを行った。



越智さん



町並み



せわだに入っていく



せわだは片側が水路になっている



雨天のため水路から沢蟹



コースから外れて高台の神社へ



地区前景

今回は、まち歩き観光に関する調査であることや、時間が比較的あったということで、コースから外れたせわだを多く回るコースを設定され、町並みをひろくみていく事が出来た。

4. おわりに

内子ねき歩きは、比較的最近できた、まちあるき観光の仕組みであるが、従来型の団体によるコース観光と違い、地元との交流や地域の隠れた資産を見ていく事が出来た、本稿では触れていないが、まち歩きでは歴史文化施設の簡単な解説や、建物のこて装飾や、うだつのある建物など、往時の栄えた様子が伺える内容となっていた。

ねき歩きは基本的なコース設定がされているものの、決まりきった内容ではなくガイドと参加者によって柔軟に変化しており、その点において満足度が高くなるようなものとなっている。

ただし、このような形態はガイドにとってより多くの情報をあらかじめ知っておく必要がある。そのためコースごとにガイドができる人が限られてしまうとい

うことがあり、その点で「まいまい京都」や高松市の「まちかど漫遊帖」に近いものがあるが、基本的なコースを設定していることから、ガイドがコースを作るのに比べれば、コースとガイドの関連性が高いわけではないが、通常のコースガイドに比べればハードルが高い。

しかし、その点を考慮しても、内子町には歴史的資産が豊富であり、ガイドのネタとしては多く、同じコースでもガイドによって全く違いものになりうるという面で実際のコース数よりも多く感じられ、リピーター獲得が期待できる仕組みとなっていると思われる。

最後に今回、内子町のまちなかを回って、食事処や宿泊施設が少なく感じた。そのため、滞在時間が少なくなりがちで、観光バス等は、2時間ほどで次へ行ってしまふなど、せっかくの資産が十分活用されていない面もある。より多くの訪問者を長く滞在させるためには、このような面を含めより一層取り組んでいく必要があると思われる。

ねき歩きは、まだまだ始まったばかりであり、またこのような仕組みではガイドの育成には時間がかかるため、あまり急拡大は期待できないが、今後の展開を期待したい。